

## 環境まちづくりNPO法人ミレニアムシティの実績概要

環境まちづくりNPO法人ミレニアムシティは2000年に東京都の認定を受けて活動を開始した。

目的は2つあり、ひとつは地球環境の蘇生、もうひとつは人と人のつながりを取り戻すことである。

現在までに約200回の正規のワークショップ（番外編も含めると約300回以上）と様々なイベントや有機農業体験プログラムも行ってきた。現在までの参加者の累計は10,000人以上である。普及啓蒙活動も多岐にわたり、たとえば講演会は80回以上開催し、国や公共団体や大学や企業等に対して環境問題や社会問題を解決する様々な取り組みや方法を伝えてきた。国土交通省からのオファーで研究会のメンバーとして約半年間にわたって未来の日本のビジョンについて提案した実績もある。以前国交省が発表した国土のグランドデザイン2050のキーワードである「コンパクト+ネットワーク」という考え方は、まさにミレニアムシティが約20年前から声高に提示してきた5つのキーワードに含まれているビジョンである。その結果、現在では会員数約500世帯800人となり、世界中のメディアにも250回以上（関連記事含む）も紹介されてきた実績をもつ（エコビレッジ団体ではダントツ日本一）。受賞も様々にしている。特筆すべきイベントとしては、2009年に行われた「未来ビレッジサミット」がある。約10団体のNPOを連携させ、将来ビジョンを明確にできた。

ゲストとしてスリランカからサルボダヤ運動代表のリトルガンジーと呼ばれるA・Tアリヤラトネ氏等偉大な実績をもつ方々を招いて講演頂けた。環境省、農水省、国交省の後援もいただけ、地球環境基金も適用された。

ミレニアムシティの最大の特徴は、様々なワークショップ等のイベントを通して環境問題や現代の様々な社会問題を分析し、かつその解決策を立案し、さらにそれに基づいて具体的にエコビレッジを各地に建設、運営しているということである。（現在では千葉に2ヶ所、山梨に1ヶ所、東京に2ヶ所）ハードとソフトにわたる解決策は、ワークショップでの「夢と未来を語る会」をくり返し行うことから多くのメンバーやゲストの意見を統合したかたちでの解決策の具体的提案である。これにより、実際の施設経営、運営や居住や使用を通しての新しいコミュニティ像と都市像をつくり出し、かつ検証を行い続けることで未来に先駆けとなるネットワーク・エコビレッジのモデルをつくり出している。コミュニティ通貨の「ミレ」も発行して「お金」に使われない社会への試行も続けている。2014年には、原発事故に対する予防措置的な新たな防災エコタウンモデルの「ネットワーク・モバイル・エコビレッジ」を富士山ミレニアムシティ第I期として世に出現させた。

さらに、2015年には、都市の中の都市モデルで、既存市街地活性化モデルとなる上石神井ミレニアムシティ第I期を完成し、運営を開始した。加えて、その1～2階にはオーガニックコミュニティカフェとして、**Yume MiraiCafe** を直営店としてオープンし、新しいコミュニティモデルの創作も開始した。

そして、道義的覚醒の場となる「ミレニアムシティ大学」も2018年（平成30年）に開校し、毎月開催している。また、2021年夏には、上石神井ミレニアムシティII期目として、「(仮称) コミュニティ・マンション」がオープン予定である。これは、老若男女の入居者を対象としたもので、超高齢少子社会への対応モデルとして、公共性、汎用性、公益性を伴った次世代解決モデルの実例提示を目指したものである。